

圓珠寺後継者 義識上人と真美 婚姻の式典

4月11日厳粛に挙行了しました。これからよろしくお祈りします。

圓 珠 寺 報

第百七十三号



念珠授与

三三九度の杯

媒酌人と入場



新郎新婦誓いの言葉



指輪交換



式長による奉告文

ご参列頂いた皆さんありがとうございました。二人の成婚を仏祖三宝やご先祖様に報告するという仏式結婚も良いものだと思っ頂けると有り難いです。

ご挨拶

初めまして、この度圓珠寺に来させて
いただきました有戸義識（ありと ぎし
き）、改め山下義識です。

昭和五十七年七月生まれの満三十二歳
です。若いころは、数学とミステリー小
説が大好きなだけで特に将来の展望につ
いては何も考えてない、訥弁な青年でし
た。それが、巡り巡って気づけば僧侶を
志していました。

私は、熊本県・熊本市にありますが日蓮
宗妙永寺の生まれでございます。ひと
えに父の姿と普段のお寺での生活が僧侶
としての道に引き込まれていく大きな要
因だったと思います。

こうして圓珠寺との縁が生まれ、修徒と
して新たな一步を踏み出させていただくこ
とができました。圓珠寺というお寺は住職
を先頭に家族が一丸となり、そして総代さ
んを筆頭にお檀家さんも力を合わせ皆でお
寺を盛り立てている素晴らしいお寺です。
圓珠寺の一員になった私ですが、まずはお
檀家さんみなさまのお顔とお名前を覚える
ことが最重要であり、そのためにも少しで
も長く、少しでも多くの言葉をみなさまと
交わすことが肝要だと思っています。

まだ能勢町周辺の土地勘もなく、本当
に色々と慣れないことばかりですが、こ
れから一生懸命頑張ります。何卒よろし
くお願い致します。



仏陀の人生哲学 十六

いつかは芽が出る 種子教育

昔のインドにダルマルチという少年がいました。彼は母と情を通じ、父を殺し、阿羅漢を殺しました。そして、最後には母も殺したという大罪人です。そんな彼は生きる希望を失い、出家しようと思いました。しかし、出家は許されませんでした。しかし、ある僧侶（実は仏陀の前生）が彼を哀れんで、出家は許されなかったのですが、仏教徒となることが許されました。仏教徒となる条件とは「三帰依」です。仏法僧への帰依を表明することです。そして、彼にこういいました。「もしもいつか仏陀という言葉聞いたならば、私（つまり、仏陀のこと）を思い出さうにと言いました。彼は、両親や、阿羅漢を殺したのですから、地獄行きは免れません。その期間とは三阿僧祇です。地獄で苦しむことで、自分の悪業を生産し、ついには人間界に生まれ、仏陀という言葉聞いたので、それを機縁として仏陀の元で出家し、最後には悟りを開くのです。

キリスト教では、最後の審判で天国に



入ることを許されなければ、永遠の死があるのみです。

仏教でも悪業を積み重ねれば、地獄行きは免れません。しかし、このダルマルチのように時間がかかっても必ずやり直しがきくのです。仏教と縁さえ結んでおれば、いつかは救われるのです。ですから、縁が大事なのです。縁とは種子です。

彼の心に、仏法僧を帰依すること、私を思い出さうにという種がまかれました。それが今生で実を結んで悟り開くのです。仏教で下種（げしゅ）という種をまくこと。そして結縁（けちえん）という縁を結ぶことの大切さを説くのはこのような意味があるからなのです。

時代が進むにつれて現代人は時間に余裕が無くなってきているのではないのでしょうか。何事も速効性が求められています。飲んだらすぐ効く薬、付いたらすぐ綺麗になる美容液。

教育もすぐに成果を求めます。教育には時間がかかります。教育に速効性だけを求めることは間違いです人間は機械ではないのです。「簡単、便利、早い」という物差しだけで教育を求めると将来大きな禍根を残すことになるのです。

仏子（ほつす） 仏拭

日本には、ハエやカはそれ程いない方です。ところが、今でもインドなどでは生活に支障をきたす程たくさんいます。それで、獣の毛や麻などを細く束ねて柄につけたものを作りしました。

仏教には不殺生戒があります。その様にものが虫を殺すことなく追い払うためには必要だったので。

それが中国に伝わり、その道具を「仏子」と訳し、虫を払う道具というよりも僧侶の象徴と見なすようになりしました。

中国では、僧侶が説法するときこの仏子を用いたようです。日本仏教では、浄土真宗以外

の宗派では、葬儀の時引導の前後にこの仏子を左右に振るようになりました。

住職が交代するときにもこの仏子の授与式があったりしますから、まさしく導師の象徴になりました。

さて、仏拭という言葉があります。「疑念が仏拭できない」というように使われます。好ましくないものという事です。仏教で仏拭されるべきものといえ

ば、煩惱です。悩を無くし、亡くなつた人にも仏様の世界に行って頂けるようという意味では通ずるものがあります。



中央檀信徒研修道場

修了ご苦勞様でした

四月二十五日(土)より二十六日(日)に至るまで、京都大本山妙頭寺におきまして、一泊二日の研修が行われました。當山からは、野間中地区より谷護さん・谷絹代さん(それぞれ中央檀研道は二回目) 加堂よしのさん・門田紀美子さん。西山地区より榎本シゲ子さん・横瀬幸子さんの六名がご参加下さいました。とても良い経験を積まして頂いたとお声を頂いております。皆さんご苦勞様でした。

今回は、たくさんの方がご参加頂き、能勢門中から十四名の方がご参加頂きました。研修場所が京都と近いこともあるのですが、それだけではなく、信仰熱心な方が増えてきているという気がしています。写真を添えられなくてすみません。

長谷妙圓寺入退寺式厳修

日と同じくして、二十六日(日)妙圓寺で住職の交代式が行われました。當山では、組寺という事もあり、また親戚でもありますから、申し訳なかったのですが総代様全員にご参列頂きました。また若く(余り若くなく四十五歳なんです)有望な住職が誕生しました。応援して下さい。

立正婦人会行事 門中寺院巡り

六月二十日(土) 地黄 真如寺さんへお参りします。ご開帳の後、お寺の縁起や仏像の説明、所作作法のお話があります。午後一時半に真如寺さんへお集まり下さい。会員以外の方でもお参り頂けます。

圓珠寺の立正婦人会役員

野間中地区

谷 真美さん 加堂 美千代さん

西山地区

横瀬 幸子さん 横瀬 伊津美さん

第九期太鼓練習

第九期は今月は4月19日(日)に練習致しました。副住職も一緒に練習に参加しました。早くみんなと馴染んでもらえると良いと思っています。能勢の太鼓は、熊本には無いのですが、練習して今は叩けるようになっていきます。



立教開宗御正当天鼓会合同奉納

四月二十八日は立教開宗の御正当の日です。日蓮聖人が、清澄寺で初めてお題目をお唱えになった日、皆で一緒に太鼓を奉納致しました。十八名の方がご出席頂きました。



第5回お釈迦様の花まつり法要を4月5日開催



小雨のため行列は出来ませんでした、楽しい一日を送って頂けたと思います。

